

the 20th European Conference on Composite Materials (ECCM20)
and
3rd International Summer School on Fatigue and Damage Mechanics of Composite
Materials
出張報告書

作成日：2022/7/25

文責：同志社大学大学院

工学研究科 機械工学専攻

構造工学研究室 M2 島野 拓実

学会名：the 20th European Conference on Composite Materials (ECCM20)

主催：EPFL

開催期間：26-30 June, 2022

開催場所：Lausanne, Switzerland

研究題目：INFLUENCE OF MECHANICAL PROPERTIES OF MATRIX ON
BENDING STRENGTH OF UNI-DIRECTIONAL VINYL ESTER
COMPOSITE

発表形式：Oral (15minutes)

学会 HP：<https://eccm20.org/>

私は 2022 年 6 月 26 日~30 日にスイスのローザンヌで開催された，“the 20th European Conference on Composite Materials (ECCM20)” に参加しました。下記にその詳細を記します。

《関西国際空港からジュネーブ空港（スイス）へ移動（出国）》

6 月 25 日朝に関西国際空港を出発し、パリを経由して 6 月 26 日の昼過ぎにスイスのジュネーブに到着しました。会場とホテルのあるローザンヌまでは鉄道で移動しました。

《ICFC-7 に参加》

この国際学会は複合材料に関するありとあらゆる実験や解析の研究が多く発表されていました。これらの研究発表を聴講するとともに、私自身も 6 月 29 日に発表を行いました。発表は大窪先生のご指導のお陰で上手くいきましたが、質問時間の応答はスムーズにできず、自分の英語を聞く力、話す力の未熟さを思い知りました。なお、発表には現地ですぐ仲良くなった学生も駆けつけてくれました。発表はかなり良かったよ！と褒めてくれました。また、同志社にいらしたという CARVELLI さんから、ねぎらいの言葉と先生方によろしくとの言付けを頂きました。

《学会参加者との交流》

レセプションパーティや学会のランチの際に、様々な方と話をしました。特に、スウェーデンの大学から来ている学生と先生方と縁があり、一緒にご飯を食べたり、観光をしに

いったりと多くの時間を過ごしました。

《ローザンヌでの観光》

ローザンヌで印象深かったのは、ジュネーブ湖の向こう側に見えるアルプスの山々の景色です。標高 4000m を超える山の迫りに圧倒されました。その他にも市内の聖堂や博物館にも訪れました。食に関しては、パンとチーズの美味しさに感動しました。日本で食べるそれらとは比較にならないほどに美味しかったです。また、それらを活かしたチーズフォンデュは素晴らしく、ワインを片手にいくらでも食べていられました。

《学会とローザンヌ滞在の感想》

現地での交流が非常にいい体験になったように思います。異国の地で、異なる国から、様々な人々が集う場所での交流、は現地に行かないとできない貴重な体験です。スウェーデン、インド、イギリス、ブルガリア、フランス、スイス、イタリア、スペイン、中国、,, 思い返せるだけでこれだけ多くの国の方と交流をしました。井の中の蛙大海を知らず、とはありますがまさにその言葉の通り、自分が狭い世界の中で生きていたことに気づかされました。

また交流を通して、英語を話す聞く力を飛躍的に向上させることができました。私は帰国子女でなければ海外留学経験者でもありません。しかしながら、へたくそな英語でも友達を作ることができました。友達ができると必然的に話す機会も増え、話すことでより上手に話せるようになっていきました。海外に行かないことに対して、英語を話すことができない、を理由に挙げる人もいると思います。確かに不安な気持ちもわかりますが、気合と勇気をもって話しかければ、大体の人が優しく接してくれるため、語学力の心配は必要ないです。むしろ語学力は現地で調達するくらいのモチベーションで行っていいのではないかと思います。

今回、国際学会での発表をするにあたり、大窪先生には添削の段階から、学校に出張許可を取っていただくところまで、何から何までお世話になりました。また、藤本さんにも膨大で煩雑な事務処理をして頂きました。お陰様で無事に発表を終え、その他にも様々な経験を積むことができました、感謝申し上げます。

講習会名：3rd International Summer School on Fatigue and Damage Mechanics of Composite Materials

主催：University of Padova

開催期間：4th to the 8th of July 2022

開催場所：Vicenza (Italy)

学会 HP：<http://static.gest.unipd.it/damageschool2022/>

私は2022年7月4日~8日にイタリアのヴィチエンツァで開催された，“3rd International Summer School on Fatigue and Damage Mechanics of Composite Materials”に参加しました。下記にその詳細を記します。

《ベニス空港からイタリアへ移動》

講習会の行われるイタリアへは鉄道を利用して移動しました。

《Summer Schoolに参加》

この講習会では複合材料の疲労に関する破壊メカニズム，実験手法やモデルの授業を受講しました。月曜～金曜の1-4限までみっちり授業が用意されていました。

《学会参加者との交流》

コーヒープレイクとランチタイムでは講習会が用意してくれたコーヒーやランチを嗜みつつ，参加者の学生と交流をしました。特に仲良くなったのは，ヤコポ（イタリア），カール（スウェーデン），ピーター（チェコ），ボフミル（チェコ）でした。だいたい国の違いによる話をしていました。例えば，食文化や学校の制度などです。彼らとは授業が終わるとヴィチエンツァ観光に行きました。観光をした後には，イタリアンを嗜み，そしてバーで遅くまで飲む。講習会での毎日はこの繰り返しでしたが，毎日が楽しく，あっという間に日が過ぎ去っていきました。

《ヴィチエンツァの観光》

ヴィチエンツァで印象深かったのは，イタリアン。特にピザは最高でした。今までに食べた中で，間違いなく一番おいしかったです。日本で食べているピザは，アメリカで売られている寿司のようなものだったのかもしれませんが。寿司にとって，ネタとシャリが大事なように，ピザも生地とトッピングのコンビネーションが大事なのでしょう。そのどちらも，最高のクオリティを誇るピザですが，値段は控えめです。そもそもピザが家庭の料理なので，高い金を出して食べるものではないようです。またお酒が好きな方には，Aperol Spritzもおすすめです。グレープフルーツのお酒ですが，飲みやすいほど良い苦みが癖になります。バーではこのお酒をピッチャーで注文していました。

《ヴィチエンツァから空港へ移動》

鉄道とバスを利用して移動しました。

《講習会とヴィチエンツァ滞在の感想》

観光をするのであれば，もっといい場所がいくらでもあるかもしれません。しかしなが

ら、イタリアの文化に触れ、ありのままの生活を体験するのであれば、ヴィチエンツァは最高の場所であると考えます。治安が良く、物価も観光都市に比べると安いので、非常に生活しやすいです。かといって観光都市である、ヴェローナやベニスへも電車で1時間程度なので、利便性も兼ね揃えています。大阪、奈良や京都へのアクセスに優れた京田辺に近いように感じました。

講習会では、これからまさに私の研究に使えるような内容を学ぶことが出来ました。また、いやでも英語を朝から晩まで聞かされるので、さすがに英語を聞く耳が鍛えられました。休憩時間や放課後も英語で話すため、スイスで作ったベースを基に、ここでも語学力を更に成長させることができました。

《謝辞》

今回、国際学会での発表をするにあたり、大窪先生には添削の段階から、学校に出張許可を取っていただくところまで、何から何までお世話になりました。藤本さんにも膨大で煩雑な事務処理をして頂きました。寺田君は私がいなくても私の分まで研究を進めてくれました。またD I C株式会社様には、そもそもの発表の機会を頂きました。お陰様で無事に発表を終え、その他にも様々な経験を積むことができました、感謝申し上げます。

今回の旅の思い出動画

スイス編 : <https://youtu.be/AQ1DG7AWn8o>

イタリア編 : <https://youtu.be/Qb-yysj5xE0>

フランス編 : <https://youtu.be/3ZbfWYvcZ2Y>



Fig.1 学会会場



Fig.2 仲良くなったスウェーデンの学生